



平成二十七年九月二日神幸祭の翌日に行われた奉納演武会直前の稽古 大石広治撮影

剣道の起源は遠く神代にある。剣に関する記事が、神代記に見えてゐるのは、鹿島神宮の祭神、武甕槌神が名剣、「師霊」を揮ひ玉ひしことに始まる、フツといふは、剣に觸れたものの切れる氣合を形容したものと思はれ、非常の名剣たりしことが想像せられるが、剣の形態及び剣法に至つては、精確に知るべき由は無い。其の武道が其幕下に傳はり、鹿島神宮、代々の祠官、夙に剣道を練磨し、紀元一千年頃、大行事國摩眞人なる者、神授に依り、神妙劍くになつのみびとと稱する一つの太刀を定めたことが、鹿島流の淵源であると傳説されてゐる。鹿島流は、吾邦剣道諸流の淵源を爲した。武甕槌神を吾邦剣道の祖神と仰ぐ由來は此に存するのである。—『日本武道史』横山健堂著より抜粋